

ＪＡおうみ富士「ＪＡおやこひろば」の取り組み

調査研究部 福田 いずみ

はじめに

ＪＡの子育て支援のひとつである「ＪＡ子育てひろば」の活動は、厚生労働省が推進し、子育て支援事業として多くの自治体やNPO法人、生活協同組合などで取り組まれている「つどいの広場」のＪＡ版ともいえる活動である。

「ＪＡ子育てひろば」の活動の特徴は、先行する自治体の子育て支援のスタイルにとらわれず、それぞれのＪＡが自由に取り組んでいるところにある。

例えば、独自の子育て支援センターを設立・運営しているＪＡや、行政と連携して常設の子育て支援センターを共同運営しているＪＡがある一方で、会議室などを利用して年に数回活動しているＪＡもあり、状況によって様々である。

しかしそこには、ＪＡの担当者やＪＡ女性部員たちが、それぞれの活動の中で「自分たちにできること」や「地域の中で必要なこと」などの問題意識を持ち、「食」や「農」に関連したＪＡらしい特色を出しながら活動しているという共通点がある。

本稿では、ＪＡ全中が平成22年度に「ＪＡ子育てひろば」の開設推進を目的として募集を行った「ＪＡ子育てひろばの試験的实施」に応募した取り組みの中から、滋賀県のＪＡおうみ富士の実施した「ＪＡおやこひろば」の活動について紹介していきたい。

1. ＪＡおうみ富士概要

平成9年2月に、守山市農業協同組合、滋賀野洲町農業協同組合、中主町農業協同組合が合併し、おうみ富士農業協同組合が発足した。

古くから「近江米」の産地として稲作農業が発達するとともに都市近郊型農業地域として園芸作物も活発に生産され、メロンをはじめキュウリ、トマト、花卉の産地として有名である。

設 立	平成9年2月
本店所在地	滋賀県守山市吉身三丁目7番6号
組 合 員 数	10,968人（・正組合員 5,661人 ・准組合員 5,307人）
総 資 産	23億3千万円
職 員 数	283名

ＪＡおうみ富士ホームページより抜粋



2. 活動内容

J A おうみ富士の子育て支援活動「おやこひろば」の取り組みは、J A の内部から近年の少子化などによる子育て支援の必要性について声があがったことをきっかけとして、平成22年5月から平成23年2月の間に5回開催された。(資料1「募集チラシ」参照)

活動内容の企画や運営については、主にJ A の担当者等が中心となって行っている。

「J A おやこひろば」の活動形態は、開催日ごとにテーマを設定した「親子講座」のようなイベント型のスタイルをとっている。

身体を使った遊びをはじめ、農業体験や料理教室などバラエティに富んでおり、参加対象年齢(3歳から6歳)の子どもが、体験しながら楽しく学べるように考えられている。

開催場所は、講座の内容に応じてJ A の既存施設(「ホール」、「ファーマーズマーケット」、「調理室」)を利用し、講師等の依頼は、J A の担当者やJ A 女性部などの人的ネットワークを活用するとともに、地域コミュニティとの連携を図っている。

(開催日毎の詳しい実施内容については、資料2「J A おうみ富士子育てひろば試験的実施内容」を参照。)



「簡単おやつ作り」

(資料1) 募集チラシ



JAおやこひろば 参加者募集

JAでは、地域住民の方に住み良い環境で子育てができる場を提供することを目的に、「JAおやこひろば」参加者を募集いたします。
様々な遊びや体験を通して、親子のふれあいの時間を作いませんか。

開催日時	内容	開催場所
5月15日(土) 10:00~12:00	開講式 ボール遊びを楽しむ	中牟田地区センター2階ホール (野洲市西河原2546)
7月17日(土) 10:00~12:00	じやがいも掘り体験 おうみんち農園	(守山市洲本町 ファーマーズマーケット)
10月16日(土) 10:00~12:00	昔の遊びを楽しむ	中牟田地区センター2階ホール (野洲市西河原2546)
12月18日(土) 10:00~12:00	簡単なおやつ作り	中牟田地区センター調理室 (野洲市西河原2546)
2月19日(土) 10:00~12:00	楽しいおひがみ教室 開講式	中牟田地区センター2階ホール (野洲市西河原2546)

※ 都合で内容が変更になる場合があります。

参加対象者 / 3歳から6歳までの未就学児とその保護者
(JAおうみ富士管内の組合員及び組合員家族に限る)
託児あります。(無料)

参加費 / 年間1,000円/親子1組

募集定員 / 15組

申込・問合せ先 / 各地区生活振興課 本 店 ☎582-8128
野洲地区 ☎588-3131
中牟田地区 ☎589-2129

申込締切日 / 平成22年4月30日(金)

キリトリせん

各地区生活振興課行き 締切日 H22. 4. 30

「JAおやこひろば」の参加費を添えて申します。

氏名(親)				男・女
氏名(子)	いくつ	さい	おとこのこ・おんなのこ	
住所				
でんわ				
	託児の有無 有・無			

※2名記入用紙を複数記入し、本申込に添付する以外には使用いたしません



「おやつレシピ」

(資料2) J A おうみ富士子育てひろば試験的实施内容

名 称	J A おやこひろば				
開設目的	高齢者や老人世帯が増加する反面、核家族と少子化を背景に、子どもを巻き込む事件・事故が多発している社会情勢が問題視されています。そんな中、組合員や地域住民が、住み良い環境の中で子育てができるふれあいの場が必要とされています。そこで、J A として若い世代の親子を対象に、J A おやこひろばを開講します。				
	第 1 回目	第 2 回目	第 3 回目	第 4 回目	第 5 回目
開催日時	5月15日(土) 10:00~12:00	7月3日(土) 10:00~12:00	10月16日(土) 10:00~12:00	12月18日(土) 10:00~12:00	2月19日(土) 10:00~12:00
会 場	中主地区センター ホール	中主地区センター 調理室	中主地区センター ホール	中主地区センター 調理室	中主地区センター ホール
対 象 者	管内 3~6歳未就学児 と保護者	管内 3~6歳未就学児 と保護者	管内 3~6歳未就学児 と保護者	管内 3~6歳未就学児 と保護者	管内 3~6歳未就学児 と保護者
利用予定者	21名 (大人8名・子供13名)	23名 (大人9名・子供14名)	23名 (大人10名・子供13名)	25名 (大人10名・子供15名)	9名 (大人4名・子供5名)
スタッフ数	6名 (内女性部部員3 名・J A 職員3名)	11名 (内女性部部員3 名・J A 職員8名)	6名 (内女性部部員2 名・J A 職員4名)	4名 (内女性部部員1 名・J A 職員3名)	4名 (内女性部部員1 名・J A 職員3名)
講 師	きらく会(5名)	—	野洲市シルバー人 材センター(13名)	木寺美知子先生	鈴木喜美江さん
主な内容	ボール遊び	じゃがいも収穫と 昼食	昔の遊び	簡単おやつ作り	おりがみ教室
参 加 費	年間500円/1人				
運 営 費	12,966円	51,192円	15,411円	9,808円	8,512円
うち会場・施設 費	4,289円	15,420円	—	—	—
うちスタッフ関 連経費	—	—	—	—	—
うちイベント関 係経費	414円	21,439円	486円	522円	1,334円
うちおやつ他材 料代	3,263円	14,333円	3,045円	4,286円	2,178円
うち講師料	5,000円	—	11,880円	5,000円	5,000円
工夫した点	おうみんといっし ょに写真撮影をし た。	予定していた収穫 体験が出来ず、小麦 粉粘土や紙芝居で 楽しんでもらった。 おにぎり持参でシ チューやポテトチ ップスで昼食を共 にした。	子供といっしょに 大人も楽しめる遊 びを選択した。資料 はシルバーで作っ てもらった。	子供たちに何が 出来るかを考えメ ニューを作ってもら った。	職員も指導出来る ように事前に練習 しました。
苦労した点	参加者に早くなじ んでもらえるよう 、お遊戯やボール を使った遊びを中 心に指導してもら った。	悪天候が続き、雨天 の可能性があった ため、テント等を準 備したが、当日雨風 のため収穫体験が 出来ず、会場や内 容を変更した。	会場がホールなの で、遊びにより、上 敷きや、机、シート を準備した。	人参やりんごのす りおろしなど子供 たちは一生懸命が んばったが、危な かしい手にひやひ やさせられた。	3歳児には1人で するのは少しむず かしかった。
その他(継続実 施に向けた課題 等)	友達を早く作れる 企画内容の取り組 み	悪天候でも出来る 内容とする。	なじみが少ない遊 びであるが遊び方 を教えてもらうこ とにより新鮮味が あり次年度の企画 にも取り組みたい。	子供の年齢が低い ので少し無理をし たので次年度には お母さん対象のも ので考えたい。	おりがみに興味を 持つ子供が少ない。

3. 担当者のヒアリングから

J Aの担当者によると、J Aおうみ富士において就学前の子どもを対象とした子育て支援を始めるにあたっては、専門的な立場（保育士など）ではないことや、会場となるJ Aの施設が子ども向けに作られたものではないという設備環境の不安など、様々な悩みがあったという。

しかし、J Aの担当者だけで全てを担うのではなく、J A女性部や地域のシルバー人材センターなどと上手く連携し、収穫体験などで「J Aらしさ」を出すことに加え、「昔のあそび」や「簡単おやつ作り」など、参加した親子にとって楽しく、有意義な活動となるよう検討を重ね、実施内容を決めた。

懸念していた設備の問題に関しては、12月に「簡単おやつ作り」を実施した際の一例をあげると、使用する調理台が参加する子どもには高すぎたため、踏み台を置いて高さの調整を図るなど、できる限りの解決策を取った。

子ども向けの設備があれば理想的ではあるが、J Aの既存施設をうまく利用して活動していくことで活動費の抑制や、J Aならではの特色のある活動につなげていきたいと考えているとのことである。



「試食タイム」

4. 利用者アンケートから

平成22年12月18日「J Aおやこひろば」を利用している参加者にアンケートを実施した。（資料3参照）

（資料3）利用者アンケート結果

支部名・項目	
ひろば名	JAおうみ富士「おやこひろば」
実施日	平成22年12月18日（土）
アンケート回収数	12
I. フェースシート	
(1) 保護者年齢	・30代(9名)・40代(3名)
(2) 参加子供数(平均年齢)	・19名(3.9歳)
(3) 農業との関わり	・農家(1名)・非農家(11名)
II. 子育て広場参加理由	
(1) 子育て広場を知った媒体等	・JAの広報誌(6名)・JA関係者の紹介(3名)・知人の紹介(3名) ・その他(1名・姉の紹介)
(2) 参加理由	・実施内容に興味があった(11名)・息抜き(3名) ・子どもの仲間づくり(2名)・情報交換(1名)・しつけ(1名)
(3) 何に魅力を感じたか	・親子で遊べる(10名)・楽しそう(6名)・子ども2人だけでなくなる(4名) ・JAがやっていて安心(3名)・家から出られる(2名)
(4) イメージはわいたか	・あまりわからなかった(7名)・すぐにわいた(3名) ・利用した経験はないがわいた(2名)
(5) 家から出にくい状況か	・特に出にくいということはない(9名)・たまになら問題ない(2名) ・出にくかった(1名)
(6) 他の育児サークルの利用(月平均)	・0回(7名)・8回(2名)・3回(1名)
(7) 託児等の利用	・幼稚園(1名)・保育園(1名)
III. 現在の育児について	
(1) 育児の不安	・育て方(9名)・子どもの成長(4名)・無し(1名) ・その他(1名・仕事と子育ての両立)
(2) 育児の葛藤	・夫や親と方針が違った(6名)・自分自身が戸惑うことがあった(6名) ・その他(1名・子育てに時間がかけられない)
(3) 育児の協力者	・夫(10名)・自分の親(9名)・配偶者の親(4名)・保育士(3名) ・兄弟・親戚(2名)・地域の人(2名)・その他(1名・友達)
(4) 悩みの共有化	・家庭内で共有(8名)・友達と共有(3名)・悩みが解消されていない(1名)
(5) 一番困っている点	・子どもの扱い方(5名)・自分の時間がもてない(3名) ・家族との育児の考え方の違い(2名)・子育ての責任(1名) ・その他(1名・仕事と育児の両立)
IV. 参加した感想	
(1) 感じた点	・家から出られ気持ちよくなる(9名)・楽しい(6名) ・企画に魅力がある(5名)・子どもをみてもらえそう(1名) ・子育てについて教えてもらえそう(1名)
(2) 今後の参加について	・参加したい(8名)・時々参加したい(3名)
*上記の理由	・平日は仕事、土日は家事となかなか子どもと触れ合えないので、こういう場で子どもと過ごせるのは嬉しい。 ・楽しい、新しい発見がある。・JAなので安心、産業体験もしてみたい。 ・子どもに色々な体験をしてほしい。・企画が楽しい。
(3) 今後何を求めますか	・ほっとする時間(8名)・食育情報(8名)・育児情報(4名) ・友達と会う時間(2名)
(4) JAに対するイメージの変化	・特に無し(6名)・JAが身近な存在になってきた(4名) ・気楽にJAに来られるようになった(2名)
(5) 参加後の子どもの変化	・特に無し(6名)・体験を通して色々なことに興味を示すようになった(5名) ・社交的になった(1名)
V. 意見・感想	
	・月一回くらい開催して欲しい。・来年もぜひ参加したい。 ・子どもに色々な体験をさせてあげられるのいいサポートだと思う。 ・JAらしい農業体験などしてみたい。 ・子どもと一緒に体験できる企画だと嬉しい。

アンケート調査およびヒアリング調査結果の要約は以下のとおりである。

- ・親の年齢は30歳代が中心で、参加している子どもの平均年齢は3.9歳。参加者のほとんどが非農家である。
- ・参加理由については、多くの利用者が実施内容に興味を持ち参加を決めている。
- ・参加した感想については、「楽しい」「企画に魅力がある」などの意見が多く出ており、参加者たちのほとんどが、来年度もぜひ参加したいと回答している。
- ・今後何を求めることについては、多くの参加者が「ほっとする時間」とともに「食育情報」を選択している。

アンケート調査とヒアリング調査の際に寄せられた個別の意見や感想は、次のとおりである。

- ・月1回くらい開催してほしい。
- ・来年もぜひ参加したい。
- ・子どもに色々な体験をさせてあげられるの
でいいサポートだと思う。
- ・JAらしい農業体験などしてみたい。
- ・子どもと一緒に体験できる企画がうれしい。
- ・参加費が安すぎて申し訳ない。
- ・家にいたら体験できないことを色々と教えてもらえてありがたい。
- ・平日は保育園に通っているのになかなか親子の時間が持てないが、土曜日にここに来たときは親子の時間を持つことができ、とてもうれしい。

5. まとめ

JAおうみ富士の「JAおやこひろば」が実施されている野洲市は、3か所の子育て支援センター、保育園・幼稚園の園庭開放、民生児童委員による子育て支援事業、児童館の乳幼児向けプログラムなど、多くの場所で子育て支援事業が実施されており、地域の中でそれぞれの親子に合った子育て支援活動を選んで利用できる状況にある。

そのような中で、この「JAおやこひろば」を選択した利用者の多くは、「収穫体験」などのJAらしい企画内容に魅力を感じて参加を決めている。



「お父さんも一緒に」

開催日が土曜日ということもあって父親の参加もあり、家族中で楽しむ姿が見られた。

また、平日は保育所や幼稚園を利用しながらフルタイムあるいはパートタイムで働く母親からは、仕事や子育てに追われている中で比較的気楽に、しかも経済的に親子の時間を楽しむことができる活動であると好評であった。

この取り組みは、JA女性部をはじめ地域のシルバー人材センターなどと連携しているため「JAらしさ」とともに、「親子の地域交流」という点においても意義のある活動となっている。

JAおうみ富士の「JAおやこひろば」は、今年度も継続していくこととし、5月から新たに2年目の活動をスタートさせるとのことである。

終わりに

今回紹介した「JAおやこひろば」は、子育て支援事業として全国的に取り組まれている「子育てひろば」のような「見守り型」ではなく、親子体験教室のような「イベント型」の取り組みに分類される。

「イベント型」には、年間の実施内容と参加人数がほぼ決まった上で運営を進めていくため、計画を実行しやすいというメリットがある。また、開催毎に1つの講座が完結することから達成感が得られやすく、主催者側にとっても継続実施に向けて自信を深めやすい。初めて子育て支援に取り組む際の活動方法として参考になるのではないかな。

また、近年、子育て支援活動を困難にしている要因として、「場所」と「人」の確保など活動基盤の脆弱さが指摘されているが、JAの場合、既存施設の活用や、JA女性部をはじめとした人的ネットワークを活動の「基盤」として、様々な活動を行えることは、大きな強みであろう。

そして、利用者アンケートの調査結果にもあるように、約半数の利用者がこの活動を通してJAを身近な存在に感じるようになったり、気楽にJAに来られるようになったとしている。このことから分かるように、JAの子育て支援は、単に農業の大切さを伝えることや、交流の場を提供するといった一方通行的なものでない。活動を通じてJAとは縁のなかった地域の親子がJAと出会い、JAもまた、地域の親子とのつながりを持つきっかけをつくる場でもあるといえよう。

JAが地域の親子とともに行うこのような活動が、次世代層の地域農業やJA事業の理解へとつながっていくことを期待したい。

参考文献

- ・『子どものための情報誌 平成22年度（2010年度）版』
野洲市子ども家庭課 野洲市子育て支援センター発行
- ・『地域の子育て環境づくり』 ぎょうせい
「編集代表」大日向雅美

※本稿は、JA全国女性組織連絡協議会からの委託を受け、本研究所が実施した「JA子育てひろば試験的实施に関する調査」において現地調査を行ったJAの事例を、委託先の了解のもと掲載するものである。